

様式（第7条関係）



令和 7年 3月 28日

伊那市議会議長 田畑 正敏 様

会 派 名 令和クラブ

経理責任者名 三澤 俊明



令和6年度 政務活動費収支報告について

伊那市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項の規定により、別紙のとおり令和6年度政務活動費収支報告書を提出します。

別紙)

令和6年度 政務活動費収支報告書

会派名 令和クラブ

1 収入

政務活動費 360,000 円

利息 12 円

合計 360,012 円

2 支出

(単位：円)

項目	金額	備考
調査研究費	360,000	航空券運賃（松本～新千歳）往復 73,000×3名 燃油特別付加運賃（国内）4,000×3名 旅客空港使用料（国内）740×3名 貸切タクシー代（松本空港送迎）55,000 貸切タクシー台（現地）71,780
研修費		
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
人件費		
事務所費		

3 残額 12 円

令和6年度令和クラブ 3名分

## 行政視察政務活動費会計報告

1. 日時・場所 令和6年7月30(北海道三笠市)～8月1日(北海道札幌市)

### 2. 会計報告

(円)

支出の項目	政務活動費より支出	個人で支出	備 考
航空券運賃(松本～新千歳)往復	219,000		73,000×3名
燃油特別付加運賃	12,000		4,000×3名
旅客空港使用料	2,220		740×3名
貸切タクシー代(松本空港送迎)	55,000		
貸切タクシー代(北海道)	71,780		
先方へのお土産		5,659	栗ようかん
タクシー運転手さんへ		2,608	お多福豆
初日昼食時飲食代		1,977	
湯の元旅館宿泊代		37,470	(食事込み)
北海道タクシー高速代		3,050	30日分
同上		1,720	31日分
同上		1,330	1日分
三笠博物館入館料		1,650	
三笠ジオガイド代		6,500	
三笠ジオ弁当		3,900	
札幌夕食飲み物代		4,950	
大倉山視察展望リフト代		3,000	
事務局へのお土産代		2,495	
貸切タクシー代(北海道)		82,300	政務活動費不足分
有料道路代		2,540	空港往復
札幌夕食代		15,000	
旅行社企画料		23,100	
旅行障害保険料		1,500	
合計	¥360,000	¥200,749	
		* 個人集金で支出	

\* 政務活動費で清算した項目は領収書を添付した。



# 領 収 証

No 001391

伊那バス観光株式会社様

令和 6年 8月 30日



金額	百万	千	円
	7	360	000

但し、税金費用として  
7月30日 行先 北海道(三笠市、札幌市)

税率	税込金額	円
10%	内消費税	360,000 32,727
税率	税込金額	円
8%	内消費税	円
非課税/不課税計		円

内訳	区分	金額
現金	0	百万 360 千 000 円
小切手	1	
振込	2	
その他	3	



TRAVEL LAND  
**waip plaza**  
ワイプラザ

登録番号 T410000102184  
**伊那バス観光株式**  
長野県伊那市西町5230 号  
TEL.0265-78-4321 FAX.0265-78-4322



議 長	副 議 長	局 長	次 長	書 記



令和6年度

# 伊那市議会 令和クラブ行政視察報告書（復命書）

伊那市議会令和クラブ

## 1、行政視察日程と視察概要

伊那市議会令和クラブでは以下の日程で2箇所の行政視察を実施しました。以下行政視察の日程とその概要等について記載します。

(1) 実施期間：令和6年7月30日（火）～8月1日（木） 2泊3日

### (2) 視察の内容

(1) 北海道三笠市・・・7月31日（水） 9:00～13:00

○三笠ジオパークの内容と運営について

○ジオパーク会場・施設の見学視察も含む

(2) 北海道札幌市・・・8月 1日（金） 9:30～12:00

○北海道大学スマート農業教育研究センターの研究内容とセンターの運営

○自動農業機器の視察（デモンストレーション）を含む

### (3) 3日間の日程について

別紙の「旅程表」にて詳細に記載してあります。

なお、会計報告（政務活動費）は別紙にて行います。

## 2、参加者（3名）

小林真由美 会長

野口輝雄 幹事長

三澤俊明 会計



## 3、参加報告書

次ページ以降に報告いたします。

三笠ジオパーク弁当

# 会派行政視察報告書

伊那市議会議員 令和クラブ 三澤俊明

提出日 2024年8月18日

## 視察報告

(1) 北海道三笠市・・・7月31日(水)

### テーマ「三笠ジオパークの視察」

「市全体がジオパーク」として知られている北海道三笠市ですが、今回その様相を目の当たりにするとともに、そこまでに至った経緯をお聞きして、逆境を逆手に取ったとでも言うべき町おこしの取り組みについて学びました。

三笠市は北海道の中央部に位置し、明治の初めまでは林業が盛んでしたが、石炭が発見されてからは炭鉱の町として栄え、ピーク時の昭和34年には人口63,000人の地方都市に発展しました。

しかしその後の相次ぐ炭鉱の閉山、特に1989年に北炭幌内炭鉱が閉山してからは人口が激減し、現在では僅か7,300人と日本で人口が少ない市ランキングの下から3番目に位置しています。

そんな三笠市ですが、石炭の採掘時に恐竜やアンモナイトの化石が発見されたのを機に1979年に市立博物館を開きました。これがその後のジオパーク認定のきっかけになったように思われます。

- ① アンモナイトで有名な市立博物館があり、古生物専門の学芸員が配置されている。
- ② 石炭産業で栄えた地域で、炭鉱まち特有の文化や炭鉱の遺構が残っており、地質遺産と人の営みを語る事が出来る。
- ③ 市立博物館周辺に炭鉱遺産、石炭、地層などが見学できる全長1.2kmの野外博物館があり、以前から散策路として整備され、モデルコースに適していた。

以上のジオパークに適した環境から、2013年に認定を受け、こんにちに至っています。

現在では市の商工観光課の職員全員がガイドの資格を持っており、ジオツアーの対応にあたっているそうです。ツアーは年に20回程度開催され、個人・団体を問わず随時受け入れ、炭鉱やアンモナイト以外にもワイナリーでのブドウ収穫体験(三笠はワインでも有名)、三笠メロン収穫体験、清流でのラフティング体験等実施しているとの事です。作物の収穫体験や清流でのラフティング体験でしたら、伊那市でも十分可能と思われれます。

また学習にも力を入れ、市内の中学では自分たちの住む地域を知る「地域科」を実施し、三笠氏の歴史や特産品などについて学んでいるようです。さらに市内の三笠高校では調理師コース、製菓コースを有しジオパークの要素をイメージしたメニューの製作・販売まで行い、ツアー客に好評を得ています。伊那市でも上農高校などは昆虫食のアレンジにトライするなど地域の食文化の研究に力を入れているので、引き続き頑張りたいと願います。

この他にも2014年から教育旅行として全国の小中学校・高校からジオパークの体験学習を積極的に募っています。そのかいあってか、スタート当時250名ほどの受け入れ生徒数であったものの現在では3,000名弱まで伸ばしています。また三笠ジオパーク全体の来客数としては認定当時年間1,000人ほどであったのに対し、現在では6,800人とほぼ市の人口と同じ数となっています。

この関係人口の伸びはもの凄いことだと思います。伊那市でも南アルプスジオパーク・エコパークを持っていますが、三笠市のように歴史や地域の特性・文化などとそれらに関係づけることが出来ないものかと考えます。以上で報告を終わります。

### 北海道大学「スマート農業教育研究センター」について

令和クラブ 小林 眞由美

1. 2024年8月1日、北海道大学・スマート農業教育センターにて会派行政視察をいたしました。

最初に北海道大学大学院農学研究院 研究院長・教授野口伸氏に代わり教授 久保友彦博士（農学）から北海道大学についての説明をお聴きしました。札幌農学校から数えて2026年で150年になり、アメリカのやり方で（本州はヨーロッパドイツ）校歌もアメリカ軍隊歌、クラーク先生の影響もありとても自由な考え方が活かされていて、学生は日本全国から、特に長野県の生徒が多いなど、独特な雰囲気があり、農業⇒スマート農業の芽が出たと考えられる。というご挨拶をいただきました。

次に北海道大学大学院農学研究院 准教授 石井 一暢 博士（農学）からスマート農業教育研究について説明をしていただきました。

#### (1) 北海道大学・スマート農業教育研究センター：2023年8月31日開所

◎学生教育は大きな目的の一つ。

◎オープンラボ（研究開発）

1業種1企業としており現在入っている企業は

…NTT 東日本、ソニーで今後クボタが入る予定。

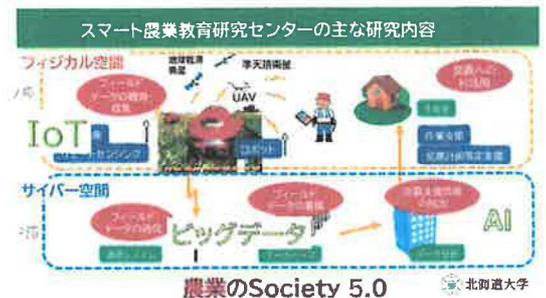
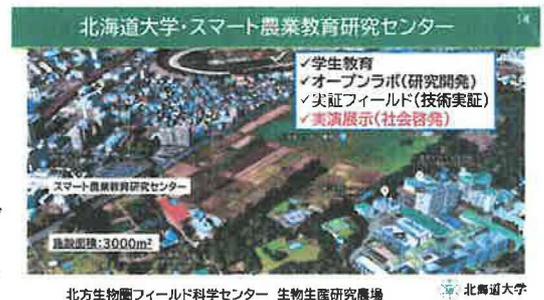
◎農林水産省がスマート農業教育拠点に認定。

##### 【3つのプログラム】

- ①スマート農業塾の実施…現役農業者の最新技術習得研修
- ②スマート農業教材の充実…講義、意欲ある学生・生徒の自習用、将来のスマート農業エキスパート養成用教材を充実。
- ③教員向けスマート農業研修の実施…学生、生徒が十分に習得できるよう、教員のスキルアップを図り育の充実を推進。

#### (2) スマート農業教育研究センターの主な研究内容

1階はフィジカル空間で物理的作業を行っており、2階はサイバー空間で情報通信、データ蓄積・分析を行っており、教育研究の両立を可能にして共同開発を行えるかんきょうになっている。



#### (3) スマート農業・リモート農業の進化

① AI ロボットへの進化



② 革新的スマート農業

大規模圃場だけではなく小規模圃場及びSDG s、将来性を考えた小型ロボットの開発、自動作業等の研究・実現化を進めている。



③ ローカル5G等を用いたスマート農業の実践による生産性向上

- ・スマート農機の遠隔監視制御で労働時間を削減。
- ・スマート農機の共用で生産コストを低減。
- ・この事業を実施することで農家の利益改善（純利益向上を図る）。

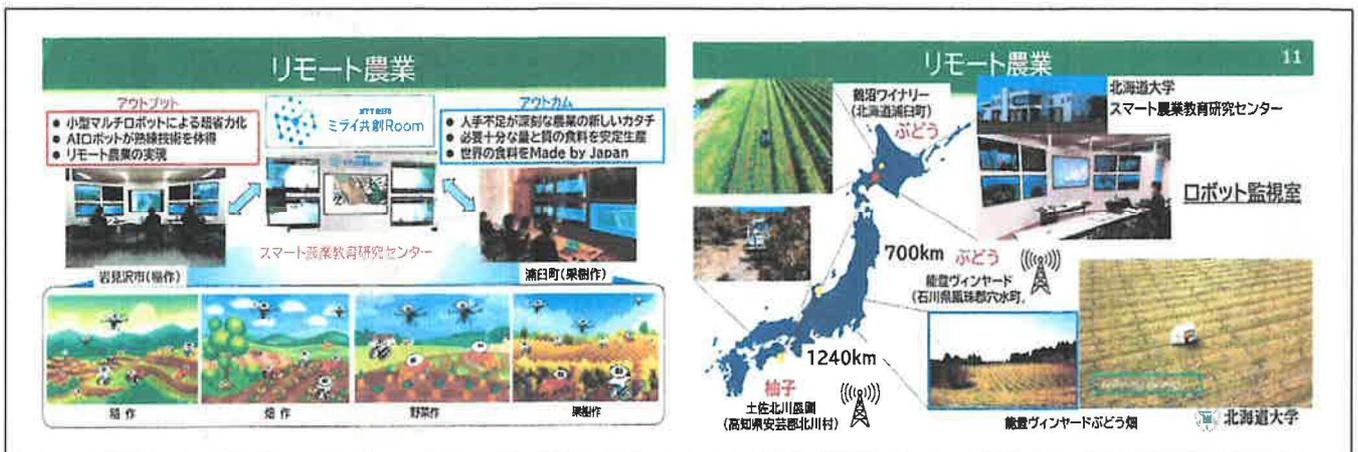
④ スマート果樹生産システム（1例）

慢性的な人手不足、熟練作業員の減少、傾斜地作業、農薬散布多回数、草刈り作業年10回、除草剤施用など人の健康被害及び作業の限界が懸念されプロジェクト開発。



⑤ リモート農業（最新技術で世界の食料を made by Japan に…!）

遠隔監視ロボットシステムは北海道大学スマート農業教育研究センターロボット監視室から北海道浦臼町 鶴沼ワイナリーだけではなく、高知県 土佐北川農園（柚子）、石川県 能登ヴィンヤード（ぶどう）のAI分析、作業スケジューリングやロボットの作業監視、作業の安全確保など行っている。



#### (4) 北海道大学・スマート農業教育研究センター施設内の見学

・2階のロボット監視室にてトラクターの自動走行の様子と遠隔操作での運転の様子を見学、1階ロボット格納庫にて各種農業機械（ロボット、自動走行可能なトラクター、EV車を自動農薬散布車等に改造）操作点検、実動の様子を説明していただきました。



## 2. おわりに

未来の農業について、国（農林水産省）、大学（研究拠点）、企業（NTT 東日本等）の連携による壮大な構想実現のためには、自治体の早期参入が必要だと思いました。

また、AI を使った技術進化が目覚ましく、情報分析など農業従事者の皆さまがこの進展に乗り遅れないためにも、多角的に研修・実習機会を早急に考えていかなければならないと感じました。

室内にいて稲作・果樹・畑作・林業ができる伊那市の一次産業を想像するだけでワクワクします。

リモート農業事業については北海道大学スマート農業教育研究センターでの研修受講後のスタッフを中心に農業を考えていただく組織として、JA が企業として取り組まれ、未来農業を創り上げていただくと良いのではないかと思います。

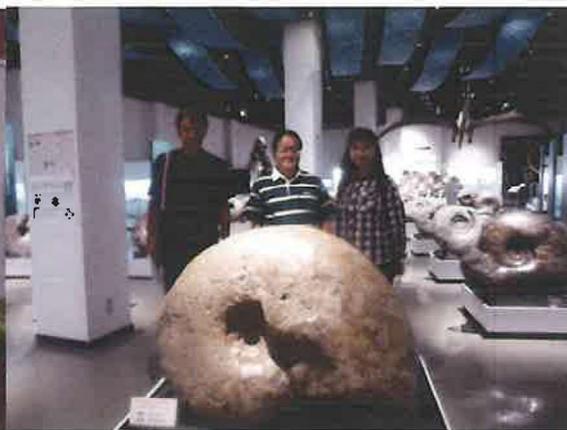
今回の会派行政視察は未来のまちづくりの農業のあり方を考える機会となりました。

この視察で学びましたことを活かし、しっかり役立てることができるよう、更に勉強して参ります。

三笠ジオパーク、北大スマート農業教育研究センターの  
行政視察時の写真記録



三笠市立博物館



博物館内のアンモナイト



炭鉱掘削の遺構



北大スマート農業教育研究センター



農業機械のコントロールセンター



農業機械の展示室